

Title	生活史研究部門(I 研究所の概要)
Author(s)	杉山, 幸丸; 田中, 二郎; 小山, 直樹; 大澤, 秀行
Citation	霊長類研究所年報 (1981), 10: 18-19
Issue Date	1981-01-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/162950
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

研究費補助金研究成果報告書(一般研究C), 34-42。

- 11) 和田一雄・市来よし子(1980): 志賀C群の季節的遊動変化と生息諸条件との関係について。昭和54年度科学研究費補助金研究成果報告書(一般研究A), 5-23。

報告・その他

- 1) 峰澤 満(1979): 染色体異常(霊長類)。疾患モデル動物ハンドブック, pp. 663-668。
- 2) 和田一雄(1979): 野生ニホンザルの世界——志賀高原を中心とした生態——。講談社。258pp。

学 会 発 表

- 1) 霊仙山群ニホンザルにおける遺伝子頻度変動の統計的解析。
野澤 謙・庄武孝義・川本 芳・杉山幸丸・大澤秀行
第24回プリマーテス研究会(1980)
- 2) マントヒヒとアヌビスヒヒの雑種化現象に関する遺伝学的考察
庄 武 孝 義
第24回プリマーテス研究会(1980)
- 8) 日本に輸入されたヨザル(*Aotus trivirgatus*)の核型変異と繁殖
峰澤 満・小寺重孝・稲垣晴久
第27回実験動物談話会(1980)
- 4) セベルツォフ学説の系統・進化論
和 田 一 雄
第23回哺乳類グループシンポジウム(1979)
- 5) 志賀高原横湯川流域におけるニホンザルの長期的な遊動域利用について
和 田 一 雄
第24回プリマーテス研究会(1980)

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎
小山直樹・大澤秀行

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの個体群生態学
杉山幸丸・大澤秀行
高崎山を中心とする餌付け個体群から導き出し

た人口学的パラメーターおよび生命表は、断片的ながら霊仙山野生群によるデータによって修正され、野生ニホンザルの生命表として別記の通り一応のまとめをするに至った。現在は、更に詳細な野生個体群の生命表作製に努力すると共に、雌の群れ離脱と群外生活、群れを形成しないニホンザルの野生生活、未成熟個体の集団離脱と群れ形成などのトピックを集中調査中である。一方、高崎山の餌付け個体群についても、個体標識によって長年月におよぶ通時的個体履歴の把握を行なっている。

2) ニホンザルの行動学的研究

小 山 直 樹

発達の観点を加味した社会関係の把握に加えて、個々の行動の詳細な記述と機能分析をおこない、近い将来、ニホンザル以外のマカ属各種について、現地調査に基づく種間比較をおこなう予定である。

3) 狩猟採集民、遊牧民の生態人類学的研究

田 中 二 郎

1966年以来数次にわたって行なってきたブッシュマンの研究のまとめを行ない、アフリカ狩猟採集民に関する新たな資料をもとに比較考察を行なった。

ケニア北部乾燥地域の遊牧民に関する資料を整理し、人類の乾燥地への適応、家畜の管理方式、遊動パターンと土地利用、社会集団構造などについて考察を進めつつある。

農耕や牧畜の食料生産手段およびそれがもたらす社会構造上の諸問題を考察するために、狩猟採集社会との比較を行ない、ホミニゼーション解明の一側面に役立てようとしている。

4) 西アフリカ・チンパンジーの行動・生態の研究

杉 山 幸 丸

継続研究の困難な西アフリカ・ギニアのボッソウ・チンパンジー個体群を個体識別の下に、2-3年間隔で定期的に調査し、道具使用などの特異的行動の観察と共に個体群動態の把握を行なった。本年度は10月から3月にかけて4カ月間、現地におもむいた。

5) ハヌマン・ラングールの個体群生態学的研究の総括

杉 山 幸 丸

1961年以来、インド亜大陸において断続的に行なってきたハヌマン・ラングールの包括的研究に一応の締めくくりをすべく、子殺し行動を焦点に

において総まとめをした。

6) サバンナ生息哺乳類の個体群生態

大澤 秀行

昭和53年度の予察調査に引き続き、本年度末より昭和55年6月にかけて、東アフリカ・ケニア北部のシマウマ等大型・中型草原性哺乳類の個体群生態・社会生態の比較研究を現地におもむいて遂行している。

総 説

- 1) 杉山幸丸(1980): “子殺しの行動学”。221pp. 北斗出版, 東京。
- 2) 田中二郎(1979): 乾燥への適応 — 狩猟採集民と牧畜民。創造の世界 31, 40-61。

論 文

- 1) Sugiyama, Y. and M.D. Parthasarathy (1979): Population change of the Hanuman Langur (*Presbytis entellus*), 1961-1976, in Dharwar area, India. J. Bombay Nat. Hist. Soc., 75(3), 860-867.
- 2) Sugiyama, Y. and J. Koman(1979): Social structure and dynamics of wild chimpanzees at Bossou, Guinea. Primates, 20 (3), 329-339.
- 3) Sugiyama, Y. and J. Koman(1979): Tool-using and -making behavior in wild chimpanzees at Bossou, Guinea. Primates, 20 (4), 513-524.
- 4) 大澤秀行・杉山幸丸(1980): 出生死亡過程から構成したニホンザルの人口学モデルとその自然群への適用。 “ニホンザル自然社会の人口学的研究” (杉山・大沢編), pp. 5-18 京大霊長研, 犬山。
- 5) 小山直樹, 乗越皓司, 真野哲三, 高畑由起夫(1980): 嵐山におけるニホンザルの個体数変動。 “ニホンザル自然社会の人口学的研究” (杉山・大澤編), pp. 19-33 京大霊長研, 犬山。
- 6) 杉山幸丸・大澤秀行(1980): 霊仙山生息ニホンザルの個体群動態, 3. — 雌の群れ離脱。 “ニホンザルの集団遺伝学的研究” (野澤謙編), pp. 41-54, 京大霊長研, 犬山。
- 7) Tanaka, J. (1980): Residential pattern

and livestock management among the pastoral Pokot. “A Study of Ecological Anthropology on Pastoral and Agrico-Pastoral Peoples in Northern Kenya?” pp. 78-95. P.R.I., Kyoto Univ., Inuyama.

そ の 他

- 1) 田中二郎(1979): 東アフリカ牧畜民の調査から。民博通信, 5, 66-68。
- 2) 田中二郎(1979): “アフリカ南部・マダガスカル” 世界の民族9 (監修)。平凡社, 東京。
- 3) 田中二郎・向井元子(訳)(1979): “遊牧の戦士たち” (E. トーマス著) 思索社, 東京。

学 会 発 表

- 1) ケニア北部における遊牧民比較調査報告: 概況, および Pokot の牧畜形態について
田 中 二 郎
第16回日本アフリカ学会学術大会 (1979)
- 2) ケニア北部におけるシマウマ2種の比較社会生態
大 澤 秀 行
第16回日本アフリカ学会学術大会 (1979)
- 3) ケニア北部遊牧民の比較調査報告: ポコットの家畜管理をめぐる
田 中 二 郎
第33回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1979)
- 4) ニホンザルメスのグルーミング戦略
小 山 直 樹
第33回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1979)

生 理 研 究 部 門

大島 清・目片文夫
林 基治

研 究 概 要

- 1) 生殖リズムの中枢機序に関する研究

大 島 清